

平成29年度 学校関係者評価書

学校名 和歌山市立中之島小学校

作成日 平成30年2月16日

1 教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもちたくましく生きる子どもの育成

- ・豊かな心情をもち、思いやりのある子ども
- ・学ぶ意欲をもち、自らのめあて（課題）に向かって取り組む子ども
- ・いきいきと活動し体育学習を楽しめる子ども

2 学校の自己評価についてのご意見

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力	体づくり
重点目標に対する意見	保護者・地域・諸団体との連携・協力・交流を積極的に図ることや、情報発信で開かれた学校づくりができると考えられる。	学校教育のあらゆる場面において、命の大切さや一人一人の人権が大切にされるようなご指導をお願いしたい。	学力の定着、向上は教員の大きな役割の一つである。研修に励み、指導力の向上を期待する。	運動の楽しさ、目標に向かって努力し達成した時の喜び等、体育科学習は、将来の体づくりに結びつくものであり、実践に期待する。
取組の状況に対する意見	学校・学年・学級だよりが定期的に出され、学校の教育活動や子ども達の状況がよくわかる。 また、ホームページもよく更新されており学校の状況がよくわかる。	人権教育は学校教育のあらゆる場で指導できるものも大切な内容である。 縦割り活動や地域の方々との交流、幼保小連携事業などの実施は、豊かな心、思いやりの心づくりに有効である。	子どもアンケートによると85%が“毎日の勉強がわかる”と答えているが、学習に不安のある子に対しても意欲的に授業に取り組める工夫をさらにお願いしたい。	体育の授業のみならず、朝休憩、大休憩、昼休憩など子どもたちがからだを使って遊ぶことのできる環境整備をお願いしたい。また、子ども達のゲームやメール、インターネット等についての弊害は、もっと家庭に呼びかけてほしい。
取組の適切さの検証結果に対する意見	授業参観の回数や11月の学校開放月間は、普段の子どもたちの様子を知る良い取り組みだと思う。 PTAも積極的に子どもたち・家庭・地域の方との交流の場を提供してくれている。	清掃を中心とする縦割り活動は子供たちの心を育てるうえで大切な取組である。 幼保小の交流では、1・2年生の子ども達にも活躍の場が与えられ、やさしい心遣いが見受けられるとともに自己有用感が醸成されている。	基礎的な学力をそれぞれの学年で確実にしっかりつけてほしい。普段の授業や「中之島タイム」を通して、学力の定着が一層確実になるよう期待する。 「うちがくのすすめ」が配布され、家庭での学習の具体的な取り組み方が示されている。	子ども達が生きる力を身に付け、心豊かな子に育つよう、教職員のチームワークを大切にして取り組んでいただきたい。 紀の国チャレンジキングを効果的に使い、自校以外の子どもたちと記録を競うことで、スポーツに関心をもたせ、体力作りに結びつけてほしい。
次年度に向けての改善方法に対する意見	校門横の掲示板を保護者や地域の方々がよく見えている。学校の活動を知ってもらい一番の広報の手立てであり、工夫して掲示してほしい。 ホームページもさらに充実発展させてほしい。	家庭での保護者の役割は心の育ちに重要であり、常に学校からアドバイスの発信を心がけてほしい。 また、学校にきにくい子どもやその保護者に対して、教職員やスクールカウンセラーを中心に、いろいろな働きかけを行ってほしい。すべての児童にとって居場所のある学校になるようにお願いしたい。	学力の定着のためにも、家庭学習の習慣化や、規則正しい生活習慣の確立が重要である。 保護者の理解、協力なしでは成り立たない。 継続して、「うちがくのすすめ」や「ドラドラ貯金」（生活調べ）の集計結果を啓発していただきたい。	教職員の工夫により、遊具や遊びの環境が新しくなった。子ども達が工夫して遊べるものが増えた。運動遊びを活発にすることで自然と体力も向上する。 さらに、子供たちが遊びたくなるような環境の充実発展を期待する。

3 その他ご意見

- ・クーラー設備やトイレが改良されることで環境がよくなりうれしく思っている。
- ・正門から校舎までの草花が少なくなりさみしくなった。
- ・校門の掲示板は地域の方々がよく見られているようです。月ごとに工夫されて皆さんに好評です。
- ・縦割り活動や幼稚園との交流は上級生としての自覚や思いやりの心も芽生えてくるのではと思う。兄弟のいない子どもさんも多い中でこの取り組みは大切にしていきたい。
- ・中之島タイムや自学ノートの取り組みでは子供たちが今、何を学びたいか、何をしたいかを自分で考え学習するようになったと思います。